

高田商業高校第一応援歌の作詞・作曲に関する明確な記録は残されていない。昭和4年の校歌作成以前には既に存在し、運動会や対外試合等で盛んに歌われていたようである。校歌作詞者の小川保氏(本校国語教師)が創立40周年記念誌によせた寄稿文「校歌の思い出」に参考となる記述があり、以下の内容になっている。

【昭和三年の秋、私が赴任した頃は、まだ校歌が制定されては居なかった。たゞ、「今宵にこぼれてまたたく星は」という女学生向きな歌詞の応援歌が、北大の寮歌として知られている「豊かにみのれる石狩の野に」の曲を借用して、盛んに歌われていたようである。～中略～ 作詞者が誰であるか今ではハッキリしていないが、多分、何時の間にか文学好きな生徒によって作られたものらしい。】

以上の記述から、北海道大学恵迪寮々歌「都ぞ弥生」(明治45年)の曲に、当時文学好きの生徒が詩をつけて第一応援歌が作成されたと思われる。曲の長さは原曲の「都ぞ弥生」より短く、末尾の旋律が少し編曲されている。

なお、第一応援歌作成当時の教職員の中に北大関係者がいて、寮歌「都ぞ弥生」の旋律借用についての仲介をなされた旨の伝承がある。

◆第一応援歌々詞

一. こよい またた ほし
今宵にこぼれて瞬く星は
くおん かがや れんま ひかり
久遠に輝く練磨の光
たまし むちう どりよく さけ
魂に鞭打つ努力の叫び
こまく やぶ たか ひび
鼓膜を破りて高らに響く
せいぎ たいどう おお
正義の大道を雄々しくたどり
のこ しるし あざ
残さん章もいと鮮やかに

三. しゃよう い りよくじゆ たら
斜陽は射ること緑樹を照し
あか ひかり の み
赤き光は野に満ちあふれ
てん そび にしき みね
天に聳ゆる錦の峯に
はぎよう とし いま
覇行をかざらん時こそ今と
しゆんめ うちの ひ むち
駿馬に打乗り火の鞭あてゝ
さじん おお すがた
砂塵をけちらす雄々しの姿

一. われら ぼこう そ せいほく
我等が母校の其の西北に
あさゆうそび かすが やま
朝夕聳ゆる春日の山は
そ な たか そうだいこう
其の名も高き霜台公の
いめい のこ かほり きよ
威名ぞ残りて香も淨し
われら ひころ きかん
これこそ我等が日頃の龜鑑
しめ ぶゆう ほこ
いざゝゝ示さん武勇の誇り

四. あらかわ なが あらうみ お
荒川の流れ荒海に落ち
さめ じょうか みどり おか
鮫ヶ城下の緑の岡に
せいぎ おお た
正義をしたひて雄々しく立ちし
ぎふん けんじ い き み
義憤の健兒の意氣をば見よや
ぎゆう かね ね ひびき ゆ
義勇の鐘の音響て行けば
そのゆめやぶ ところ
甘夢破らん所やあらん

◆第一応援歌楽譜

Allegro



こよいに こぼれて またたく ほしは くおんに
かがやく れんまの ひかり たましに むちうつ
どりよくの さげび こまくを やぶりに たからに

Andante

ひびく せいぎ の だいど ー
おおし くだど り の こさ ん
しるし も いとあーざやか に



◆北海道大学恵迪寮々歌「都ぞ弥生」 ～明治45年寮歌～

出典：Wikipedia

「都ぞ弥生（みやこそやよい）」は、北海道大学の学生寮である恵迪寮^{けいてき}の寮歌の一つ。

1912（明治45）年度の寮歌として作られた。当時の恵迪寮は、北海道大学の前身となる東北帝国大学農科大学の予修科（予科）学生の寄宿舍であった。恵迪寮では1907（明治40）年から寮歌が作られており、「都ぞ弥生」は第6回目の寮歌である。

作曲者は当時予科3年生であった赤木顕次（1891～1959年）。

作詞者は同じく2年生であった横山芳介（1893～1938年）。



「都ぞ弥生」歌碑

「都ぞ弥生」は自然の美しさを讃える歌詞であるのが特徴である。色彩や光彩を表現する言葉が多く使われ、星・雲・空などの広大な自然を表す言葉も多い。

1番の歌い出しの「都」とは、今日ではしばしば札幌のことと誤解されるが、当時の札幌は都会ではなかった。また、当時の大学予科は9月入学であり、1番の歌詞は実際には、華やかな都（おそらく東京）の春の桜の姿を暫時のものと見限り、「人の世の清き国」北海道に憧れた心情を歌っているのである。

しばしば「日本三大寮歌」の一つに挙げられる。他の二つは、旧制第一高等学校寮歌「嗚呼玉杯」と旧制第三高等学校寮歌「逍遙の歌」である。なお、「日本三大校歌」の一つと言われることもままあるが、「都ぞ弥生」などは、校歌ではないので誤りである。

「さっぽろ・ふるさと文化百選」のNo. 099に選定されている。

【歌 詞】

- 一. 都ぞ弥生の雲紫に 花の香漂ふ宴遊（うたげ）の筵（むしろ）
尽きせぬ奢に濃き紅や その春暮ては移らふ色の
夢こそ一時青き繁みに 燃えなん我胸想ひを載せて
星影冴かに光れる北を
人の世の 清き国ぞとあこがれぬ
- 二. 豊かに稔れる石狩の野に 雁（かりがね）遙々（はるばる）沈みてゆけば
羊群声なく牧舎に帰り 手稻の嶺（いただき）黄昏（たそがれ）こめぬ
雄々しく聳ゆる楡の梢 打振る野分（のわき）に破壊（はゑ）の葉音の
さやめく萱（いらか）に久遠（くをん）の光り
おごそかに 北極星を仰ぐ哉
- 三. 寒月懸（かか）れる針葉樹林 櫓の音（ね）凍りて物皆寒く
野もせに乱るる清白の雪 沈黙（しじま）の暁霏々（ひひ）として舞ふ
ああその朔風颯々（ひょうひょう）として 荒（すさ）ぶる吹雪の逆巻くを見よ
ああその蒼空（そうくう）梢聯（つら）ねて
樹氷咲く 壮麗の地をここに見よ

四. 牧場（まきば）の若草陽炎燃えて 森には桂の新緑萌（きざ）し
 雲ゆく雲雀に延齡草の 真白（ましろ）の花影さゆらぎて立つ
 今こそ溢れぬ清和の陽光（ひかり） 小河の澗（ほとり）をさまよひゆけば
 うつくしからずや咲く水芭蕉
 春の日の この北の国幸多し

五. 朝雲流れて金色（こんじき）に照り 平原果てなき東（ひんがし）の際（きわ）
 連なる山脈（やまなみ）玲瓏として 今しも輝く紫紺の雪に
 自然の藝術（たくみ）を懐（なつかし）みつつ 高鳴る血潮のほとばしりもて
 貴（たふ）とき野心の訓（をし）へ培ひ
 栄え行く 我等が寮を誇らずや

【楽 譜】

恵迪寮自治会発行の寮歌集に掲載されている楽譜を載せる。これは 1975(昭和 50)年に北海道大学交響楽団の常任指揮者であった川越守によって改訂されたものである。

都ぞ弥生を含めた恵迪寮寮歌は時代によって歌うテンポなどに違いが見られることや、当時伝わっていた楽譜自体も音楽的に適切なものでないなどの問題があったが、恵迪寮史などを参考に改訂が行われている。

みやこぞやよいのくもむらさきに はなのかただよう
 うたげのむしろ つきせぬおごりにこきくれないや
 そのはるくれてはうつろういろの ゆめこそひととき
 あおきしげみに もえなん わがむね おもいを
 のせて ほしかげ さやかに ひかれるきたを
 ひどのよの きーよきくにぞとあこがれぬ

<都ぞ弥生が登場する作品>

- ゴジラの逆襲：1955 年公開。北海道の料亭で宴会が催されるシーンで、都ぞ弥生を合唱している声が聞こえる。
- 風速 40 米：1958 年公開。北大工学部建築学科に所属している主人公と妹と一緒にテラスで歌うシーンがある。
- あじさいの歌：1960 年公開。『風速 40 米』でも都ぞ弥生を歌った石原裕次郎演じる商業デザイナーが、訪問先の家で歌うシーンがある。
- となりのトトロ：1988 年発行。宮崎駿原作、久保つぎこ著の小説版では、お母さんのお見舞いに行った帰りにお父さんが歌うシーンがある。
- 七帝柔道記：2013 年発行。北大柔道部 OB 増田俊也著。北大柔道部の伝統行事のために都ぞ弥生などの寮歌を覚えるシーンがある。
- 清き國ぞとあこがれぬ：2013 年放送。北海道放送制作。都ぞ弥生誕生にまつわるドキュメンタリードラマ。北大合唱団 OB によって歌われたものが挿入されている。
- 死にがいを求めて生きているの：2019 年刊行。朝井リョウ著。北大祭における「一人の都ぞ弥生」で都ぞ弥生を歌うシーンがある。

<関連項目>

- [嗚呼玉杯](#)
- [佐賀県立佐賀西高等学校](#)
- [佐賀県立佐賀北高等学校](#)で、ファイヤーストームにおいて歌われている。

【都ぞ弥生】 By YouTube

明治四十五年寮歌

都ぞ弥生

横山芳介 作曲
赤木頭次君 作曲

一
都ぞ弥生の雲紫に
花の香漂ふ宴遊の筵
尽きせぬ奢に濃き紅や
その春暮れては移らふ色の
夢こそ一時青き繁みに
燃えなん我胸想ひを載せて
星影冴かに光れる北を
人の世の清き國ぞとあこがれぬ

北海道大学 忠迪寮
Google Play
App Store
寮歌 アプリ

北海道大学忠迪寮 寮歌集アプリ <https://www.ep.sci.hokudai.ac.jp/~mkuriki/phone/ryoka/>

URL : <https://youtu.be/Nm4dRKp9x68>